

環北太平洋地域における先住民文化の比較研究に関する一考察：歴史、現状、未来

岸上伸啓

(人間文化研究機構・国立民族学博物館)

環北太平洋沿岸地域とは、日本列島北部、サハリン、アムール川流域、千島列島、カムチャツカ半島、チュコト半島、アリューシャン列島、北アメリカ大陸アラスカ沿岸、カナダ西海岸地域を含む広大な地理的空間であり、ほぼ北緯 30 度以北の太平洋を挟んだ新旧両大陸の沿岸地域をさす。

同沿岸地域の先住民文化は太平洋を隔てているものの東西において相互に類似していることが知られている。その類似性の原因は、生態環境が似ていることやサケや海獣資源に経済基盤を置いてきたこと、歴史的に交易など相互交流があったことなどであると考えられている。

19 世紀末にフランツ・ボアズが始めたジェサップ北太平洋調査プロジェクト (1897 年～1902 年) 以降、北太平洋沿岸地域の先住民文化に関する文化人類学や考古学研究が盛んに行われてきた。本発表では、環北太平洋沿岸地域の先住民文化に関する人類学的研究の歴史と現状、将来について報告し、検討を加える。具体的には、渡辺仁の研究 (1980 年代) と北海道立北方民族博物館の国際シンポジウム (1988 年～)、スミソニアン協会国立自然史博物館の「大陸の交差点」プロジェクト (1980 年代半ば～1990 年代半ば)、宮岡伯人の環北太平洋言語プロジェクト (1980 年代後半～2005 年頃)、ジェサップ II プロジェクト (1992 年～2009 年頃)、国立民族学博物館の環北太平洋研究・展示プロジェクト (1978 年～) を紹介した後、環北太平洋地域の先住民文化の研究の動向と現状について概略し、研究成果や問題点、今後の課題について検討を加える。

本発表では、結論として下記の点を強調する。

(1) これまで、複数の研究プロジェクトが実施

されてきたが、特定の地域、民族や時代に焦点をあてた専門化・細分化した研究が多く、研究成果をあげてきた。研究の深化において多くの日本人研究者も重要な役割を果たしてきた。その一方で、北太平洋沿岸地域の先住民文化の類似性と差異について総合化した研究が存在していない。

(2) 20 世紀以降の国家政策や経済のグローバル化、環境変動が北太平洋沿岸地域の先住民文化に及ぼした諸影響と現地側での対処に関する比較研究がほとんど行われていない。

(3) 総合化をめざす学際的な比較研究プロジェクトを実施すべきである。また、研究者は同地域の先住民の言語や文化の創造的継承にも貢献すべきである。そのためには、国内外の学会間や研究者間の学術交流を促進するとともに、現地の文化の担い手と組織的な連携ネットワークを形成し、協働しながら学術研究と先住民文化の振興を推進することが望まれる。

(4) サハリンやカムチャツカ半島、チュコト半島の諸先住民族の文化や社会を研究している日本人やロシア人の若手研究者がきわめて少ないため、若手研究者の育成が喫緊の課題である。

(参考文献)

岸上伸啓編 (2015) 『環北太平洋地域の先住民文化』

(国立民族学博物館調査報告 132 号) 大阪：国立民族学博物館。

谷本一之、井上紘一編 (2009) 『「渡鴉のアーチ」 (1903-2002) —ジェサップ北太平洋調査を追試検証する』 (国立民族学博物館調査報告 82 号) 大阪：国立民族学博物館。

宮岡伯人編 (1992) 『北の言語：類型と歴史』東京：三省堂。